

先年

御上洛之節書類有無御尋ニ付申上候書付

先年

御上洛之節御見合可相成書物有之候ハ、早々

可差出旨御達ニ付、取調候処、書類并先々申送等も

無之、寛永度

御上洛之節者岡田将監先代支配中ニ付、今般

御達之趣を以将監家来江手附・手代より及掛合候処、

旧記類取調候得共、御見合可相成書類一向見当

不申、尤先年旧書類多分江戸表江相廻候趣申伝

有之候間、江戸表江早便を以申遣、尚可及挨拶旨

申越し候間、不日追而可申上候、

一尾州熱田御困糶之儀者寛永十酉年中

御上洛為御要害初而御取立、御詰糶与唱、濃州

御料所村々より御詰糶被仰付候処、寛政二戊年より

御差止相成候、後同州村々急難其外非常為

御手当、同四子年猶又御物成米之内を以御詰糶被

仰付候趣先々引渡之書類有之候得共、御詰糶員数

之儀者相分不申候、

右者先年

御上洛之節書類有無御尋ニ付取調候処、書面之通

御座候、且宝曆度朝鮮人来朝之節濃州今須宿

休御賄御用美濃郡代千種清右衛門江被仰付、其節

濃州墨俣川・佐渡川・小熊川之儀者船橋懸渡相成、

右書類引渡有之候間、為御見合写差出申候、依之

此段申上候、以上、

戊七月

岩田鋏三郎

御勘定所